

【書類名】明細書

【発明の名称】特許価値算出装置

***他に発明の名称があれば追加してください（プログラム、～方法）

など***

【技術分野】

本発明は、**特許価値を算出する装置**等に関するものである。

【背景技術】***不要であれば削除***

従来の特許価値算出装置において、～（例えば、特許文献1参照）。

【先行技術文献】***不要であれば削除***

【特許文献】***記載例***

【特許文献1】特開～～号公報（第1頁、第1図等）

【特許文献2】特開～～号公報（第1頁、第1図等）

【非特許文献】***記載例***

【非特許文献1】特許一 郎 著 「ハントスキャナのいろいろ」特許出版 2003年

【非特許文献2】新崎 準、外3名、“新技術の動向”、[online]、平成10年4月1日、特許学会、[平成11年7月30日検索]、インターネット [URL：<http://tokkyo.shinsakijun.com/information/newtech.html>]

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、従来の特許価値算出装置においては、＜全体課題＞という課題があった。

【課題を解決するための手段】

本第一の発明の特許価値算出装置は、特許書類を解析し、解析結果から特許価値を算出し、特許価値を出力する特許価値算出装置である。

かかる構成により、＜効果1＞ことができる。

また、本第二の発明の特許価値算出装置は、第一の発明に対して、特許書類を解析し、解析結果から特許価値を算出し、特許価値をグラフ化して出力する、特許価値算出装置である。

かかる構成により、＜効果2＞ことができる。

【発明の効果】***不要であれば削除（発明に共通の効果を簡潔に記載）***

本発明による特許価値算出装置によれば、＜全体効果＞ことができる。

【図面の簡単な説明】***不要であれば削除***

＜＜必須図説明＞＞

【発明を実施するための形態】***不要であれば削除***

＜＜発明を実施するための形態ヘッダ＞＞

（実施の形態1）

本実施の形態において、**特許価値を算出する装置**特許価値算出装置1について説明する。また、本実施の形態において、＜実施の形態1の前置部 なし＞の特許価値算出装置1について説明する。

＜＜ブロック図説明＞＞

特許書類を解析し、解析結果から特許価値を算出し、特許価値を出力する特許価値算出装置である。

特許書類とは、特許公報や、特許出願前の出願文書情報などである。

必要な場合、フローチャートを記載

フローチャートでは、特許価値算出装置1の動作を詳細に記載

＜＜フローチャート説明＞＞

（ステップS101）

(ステップ S 1 0 2)

(ステップ S 1 0 3)

(ステップ S 1 0 4)

(ステップ S 1 0 5)

(ステップ S 1 0 6)

(ステップ S 1 0 7)

(ステップ S 1 0 8)

(ステップ S 1 0 9)

(ステップ S 1 1 0)

(ステップ S 1 1 1)

(ステップ S 1 1 2)

(ステップ S 1 1 3)

(ステップ S 1 1 4)

(ステップ S 1 1 5)

(ステップ S 1 1 6)

(ステップ S 1 1 7)

(ステップ S 1 1 8)

(ステップ S 1 1 9)

(ステップ S 1 2 0)

<<フローなお書き 1 >>

<<フローなお書き 2 >>

<<具体例説明>>

<<実施の形態の効果>>

<<なお書き 1 >>

<<なお書き 2 >>

<<なお書き 3 >>

<<実施の形態フッタ>>

<実施の形態 1 の未使用情報 なし>

(実施の形態 2)

本実施の形態において、**特許価値を算出する装置、特許価値をグラフ化して出力する装置**特許価値算出装置 2 について説明する。また、本実施の形態において、<実施の形態 2 の前置部 なし>の特許価値算出装置 2 について説明する。

<<ブロック図説明>>

特許書類を解析し、解析結果から特許価値を算出し、特許価値を出力する特許価値算出装置である。

特許書類とは、特許公報や、特許出願前の出願文書情報などである。

特許書類を解析し、解析結果から特許価値を算出し、特許価値をグラフ化して出力する、特許価値算出装置である。

グラフとは、折れ線グラフ、散布図、レーダーチャートなどの各種のグラフであり、形式は問わない。

*****必要な場合、フローチャートを記載*****

*****フローチャートでは、特許価値算出装置 2 の動作を詳細に記載*****

<<フローチャート説明>>

(ステップ S 2 0 1)

(ステップ S 2 0 2)

(ステップ S 2 0 3)
(ステップ S 2 0 4)
(ステップ S 2 0 5)
(ステップ S 2 0 6)
(ステップ S 2 0 7)
(ステップ S 2 0 8)
(ステップ S 2 0 9)
(ステップ S 2 1 0)
(ステップ S 2 1 1)
(ステップ S 2 1 2)
(ステップ S 2 1 3)
(ステップ S 2 1 4)
(ステップ S 2 1 5)
(ステップ S 2 1 6)
(ステップ S 2 1 7)
(ステップ S 2 1 8)
(ステップ S 2 1 9)
(ステップ S 2 2 0)
<<フローなお書き 1>>
<<フローなお書き 2>>
<<具体例説明>>
<<実施の形態の効果>>
<<なお書き 1>>
<<なお書き 2>>
<<なお書き 3>>
<<実施の形態フッタ>>

<実施の形態 2 の未使用情報 なし>

<<発明を実施するための形態フッタ>>

【産業上の利用可能性】*不要であれば削除（効果は、必ず出る効果を簡潔に記載）*****

以上のように、本発明にかかる特許価値算出装置は、<全体効果>という効果を有し、特許価値算出装置等として有用である。

【符号の説明】*不要であれば削除*****

【受託番号】*不要であれば削除*****

【配列表フリーテキスト】*不要であれば削除*****

【配列表】*不要であれば削除*****

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項 1】

特許書類を解析し、解析結果から特許価値を算出し、当該特許価値を出力する特許価値算出装置。

【請求項 2】

特許書類を解析し、解析結果から特許価値を算出し、当該特許価値をグラフ化して出力する、請求項 1 記載の特許価値算出装置。

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 従来の特許価値算出装置においては、＜全体課題＞という課題があった。

【解決手段】 特許書類を解析し、解析結果から特許価値を算出し、特許価値を出力する特許価値算出装置 1 により、＜全体効果＞できる。

【選択図】 図 1